



東京都支部



北海道支部



宮城県支部



埼玉県支部



大分県支部



千葉県支部



長野県支部



群馬県支部

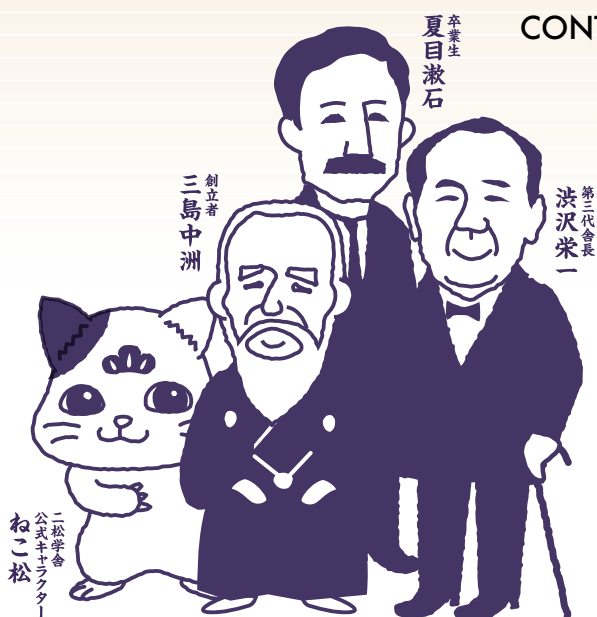


神奈川県支部



愛知県支部

二松學舎 松苓会報



CONTENTS

- P1 目次
- P2 会長挨拶 新学長挨拶
- P3 吾輩推し言葉④
- P4 松苓会支部長だより⑤ー関東支部特集ー
- P8 学生会員だより
- P10 叙勲受章 卒業生だより
- P11 卒業生の出版図書
- P12 「第29回松苓会定期総会」開催報告
- P14 二松學舎松苓会役員名簿
- P15 二松學舎松苓会ホームページ ご活用ください！
- P16 事務局だより 訃報 編集後記

No.72 2024年 10月1日
二松學舎大学同窓会広報誌

2022年10月に145周年を
迎えました
145th
anniversary
since 1877

2024年度の取り組み

二松學舎松苓会会長
平野 光治

会員並びに関係者の皆様には平素より二松學舎松苓会に對しまして、ご理解とご支援をいただき、感謝申し上げます。

2024年6月8日(土)の第29回定期総会において2023

年度関係及び2024年度事業方針並びに事業計画、予算等全ての議案が承認されました。7月13日(土)の常任幹事会では総会の趣旨を受けて、宿泊費の増額が承認されました。2024年度のスタートにあたり、昨年度は諸案内や会計処理において遅れや誤りがあり、役員、会員の皆様にご迷惑をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。改善を図ってまいります。今年度の三役会の方針を

「松苓会の目標達成のため、個人ではなく組織として取り組む。」「会員の声を聞き、三役会で検討して結果を報告する。」「決定したことは役員全員の協力を得て実施する。」と決めました。この方針のもと「松苓会・会員にとって良いと思われる事は予算や継続性等を考慮しつつ実行する。」との考えを持って取り組んでまいります。また、コロナの影響が心配される昨今ではありますが、

社会はコロナ禍以前の生活に戻りつつあります。復活しつつある大学の諸行事や支部活動を積極的に支援してまいります。「事業部会」「組織部会」「広報部会」「総務部会」の業務分担を尊重し、相互の協力、機能連携を活かして事業の発展を図ります。

会員並びに関係者の皆様には更なるご支援ご協力と多くのご意見を賜りますようお願い申し上げます。

新学長挨拶
挑戦を喚起する学長
佐藤 晋

2024年4月に学長に就任しました佐藤晋です。本学の伝統を引き継ぎ、学生一人ひとりに對して手厚く指導し、在学中に成長させて社会に送り出すという教育機関としての使命を果たし、いっそう社会に必要とされる大学に

していきたくと考えています。就任以来、私は、学生本人を鼓舞することはもちろん、教える側の教員にも、若者の持つ潜在的な可能性、学生本人も気づいていないような能力がまだ眠っていると想定して、学生に成長のチャンスと環境を与えていってほしいと伝えています。こういう私も、健康目的で始めたマラソンでは、ハーフ、30キロレースと距離を伸ばしていき、8年間のラン歴でフルマラソンを完走することができました。このように自分の能力を伸ばすのに遅すぎるといふこ

とはなく、何が自分にできるのかもやってみるまでわからない。従って何にでもチャレンジしていつて欲しいと学生に伝えています。そのためにも、何かを発言しても挑戦しても罰せられない馬鹿にされたりしない環境、成長したいという意志・成長させたいという姿勢・成果を外に発信していこうという外向性などを醸成し、そういった状況において将来活躍していける人材を育成し、結果として本学の知名度も上げていきたく思います。それまで、まさかできると

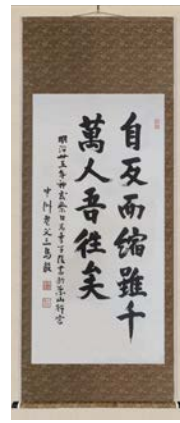
思っていなかったことができ、自分の中の才能に気づくことは、人間最大の喜びと言えるかもしれません。こうした経験を学生が積むことで、自分はやってみたらなんでもできるのではないかといった自己効力感が高まり、その結果、次々と挑戦のフィールドを広げていって、社会に出て活躍するという様になってもいいと思います。そこで、そのような挑戦を喚起するような環境を教職員一体となって生み出したいと思っています。

連載

吾輩、推し言葉

千万人と雖も我往かん

4



この書幅は本学1号館13階ラウンジのガラス展示ケースに飾られている。三島中洲73歳、明治35年葉山の行宮にて御進講の際に揮毫されたものである。中洲師は明治29年に東宮（大正天皇）の侍講に命じられ各地に赴かれた。大らかで勢いのある書である。『自ら反みて縮くんば、千万人と雖も我往かん』と訓む。「良心に恥じるところがないならば、千万の敵といえども恐れるに足りない」という意味である。

「孟子」15章の中でこれほど力強く、有名な言葉はない。これは孔子の、「内に省みて疚しからざれば、夫れ何をか憂い何をか懼れん」ということばを敷衍したものである。

る。

「仁者は憂えず、知者は惑わず、勇者は懼れず」が君子の目指すものだからである。

この『千万人と雖も我往かん』の『大勇』に人は魅了される。孟子の思想の特色をなすものは、人間の本性を善とする性善説、性善にもとづく仁義の思想、仁義にもとづく王道政治論である。人間への信頼、善意と可能性を信じて疑わない理想家の信念に圧倒される。背中を押してくれる魔法の言葉であり、何より民意を優先して変革を訴える政治哲学である。

かつて「孟子」は「革命の書」と言われ為政者に恐れられた。「孟子」を載せて日本に渡る船は沈没するとまで言われたという。何故そんなに敬遠されたのか。革命を肯定する書を時の権力者が警戒したからに他ならない。

そこで、三島中洲と師の山田方谷の話である。陽明学は中国明代に王陽明が起こした儒教の一派で、孟子の性善説の系譜に連なる。形骸化した朱子学の批判から出発した。朱子学は体制を形作る治世者に都合がよく、一方陽明学は自己の正義感に囚われて革命運動に走る危険性を孕んでいる。

山田方谷は備中松山藩に仕え、財政破綻寸前の藩政を改革し、藩主が幕府の老中になると、顧問として幕政にも関わった。儒者にして行政家であった。

三島中洲は14歳で方谷の門に入り、さらに昌平黌等で学んだ。30歳の時、備中松山藩に仕え、幕府老中でもあった藩主板倉勝静とともに激動の幕末を経験した。

明治維新後、新政府の命により司法省の判事等を務めた。明治10年、官を辞し「漢学塾二松學舎」を創設。その円満な学徳は朱子学と陽明学の統合である。師の山田方谷はこの両学を相対化して理解

できる人間にしか陽明学を教授しなかったと言われる。

明治維新の精神的指導者、吉田松陰が安政の大獄で捕らえられ、獄中で行った講義『孔孟余話』と『留魂記』は倒幕運動の起爆剤となった。

二松学舎大学ブックレット創刊『三島中洲入門』はおすすめである。中洲の思想と人となり分かりやすく紹介され、「吉田松陰との出会い」等も載っていて興味深い。

明治35年は日露戦争の始まる2年前である。日英はロシアを牽制する同盟を結び、更なる『坂の上の雲』をめざしていた。中洲師は葉山の行宮で東宮（大正天皇）に侍講。この『大勇』の言葉を揮毫された。

国費留学生、夏目漱石はロンドンの下宿で親友、正岡子規の死を知る。選ばれし者の重圧から神経衰弱に陥っていた。そして翌36年に帰国する。近代国家を作り上げた日本人の気概は『千万人と雖も我往かん』であった。

家永 修（44文・院修11文）



連載

松苓会支部長だより⑤

— 関東支部特集 —

群馬県支部

「わが学生時代」

支部長 高柳薫 (47文)



私の学生時代は、東京ドームでなくて、まだ「後

楽園球場」でした。部活動(落語研究会)を終え、帰路の途中で電車の窓からジャイアンツが得点している「電光掲示板」を見つけると、早速、水道橋駅で下車。立ち見のチケットを購入し、1塁側の上段で野球観戦したことが度々ありました。

落語研究会では、顧問の青山忠一先生のお言葉が頭に残っています。「君たちは落語演技会ではない。研究して、芸の善し悪しの判断ができる人になってほしい。良い芸人にご祝儀が出せるような旦那になりなさい。」とのことでした。百聞は一見に如かず。良いもの(本物)をたくさん見るため、落語や歌舞伎を観に行きました。私は、アパートでの一人住まいでしたの

で、金銭的な余裕などありません。そのため、寄席やホール落語を聞きに行くときは、決まって神田のデイスカウントショップへ足を運びました。「株主優待」なる格安チケットが販売されており、大分安く購入することができました。落語散歩と称して「谷・根・千」界隈や神楽坂界隈、王子界隈や郊外として高尾山の散策にも行きました。たくさんの人や物、場所と出会いながら様々なことを教えていただきました。

二松學舎大学の良さは諸先生方の熱心な指導だけでなく、大学の立地の良さだと思っています。ご指導いただいた知識や動機付けは、大学近隣の諸施設で深化させたり、応用させたりして身に付けることができました。

150周年を間近に控え、躍進を続ける姿はOBとして誇りに思います。関係者の皆様の不断のご努力に感謝いたします。

栃木県支部

書道部回想

支部長 寺内進(49文院修16文)



在学時代を

振り返ると、

書道部での思

い出が最も強

い。当時、二松の部活といえ
ば語文研と書道部が二大勢力
で、ともに100名を越える
部員を有した。書道部は週2・
3回の活動だが、常に50〜60
名が出席。三教室に分散して
グループ単位で課題に取り組
んだ。帰日も異様だ。この部
員が集団で靖国神社を通り抜

け飯田橋駅に向かうのだ。当
時はJRの利用者が多く、先
輩後輩入り混じって馬鹿話を
しながらチンタラ歩いていた
が、またそれが楽しかった。

飯田橋駅周辺には思い出が
たくさんある。神楽坂のお好
み焼き屋「春波」では借り切
って打ち上げをよくやった。
宴の最後は書道部恒例の「武
田節」を肩を組んで歌い、「部
歌」で閉めた。二次会は、今
はなき喫茶店「軽い心」。だ

だっ広くて薄暗く、応接ルー
ムのような雰囲気だった。大
人数には丁度よかった。そ
の外にも「キッチン熊」、喫
茶「ルノアール」、肉まんの
「五十番」など懐かしい所が
多い。

書道部では、伝統?として
様々なことを教えられた。活
動は黙想で始まり黙想で終わ
る。合宿では、スリッパ揃え、
「食事五観」の斉唱、座禅、
写経など厳しく指導された半
面、キャンプファイヤー、フ
ォークダンス、川遊び、創作
劇など、書道以外のことも多
く体験した。

当時は行事のたびに「部
歌」を歌った。七五調の情緒
あるいい曲だ。作詞は古筆鑑
定で知られた教授の堀江知彦
先生。作曲は先輩部員と聞い
ている。歌詞は3番まである
が、その1番を紹介して、書
に懸けたわが青春回想のま
めとしたい。

心豊かに平らけく、

ある日の文字は打ち磨く。

春の海面を見る如く、

安らぎ見する筆の跡。

茨城県支部

歴史の町 土浦

支部長 青山幸雄(49文)



私の居住地

土浦は、土浦

海軍航空隊

(予科練)の

存在で知られているが、今で
はレンコンの生産日本一の茨
城県南部の中心地である。つ
くば市の方が世界的に知れ渡
っているのは少々残念ではあ
るが、これも時代の流れで致
し方のないこと。

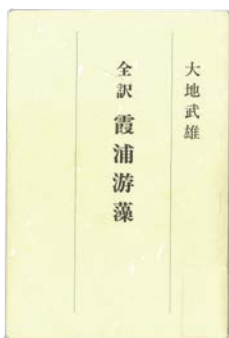
土浦の歴史は古いが、江戸
時代には土屋氏9万6千石の
城下町として栄え、明治にな
ると土浦県(明治4年)が設
置され、土浦城内に県庁も設
置された。

そのころ、法曹界にあった
三島中洲は、明治6年、土浦
に置かれた新治裁判所(現水
戸地方裁判所土浦支所)長と
して着任。その後2年間、数
多くの裁決に携わったとい
う。その間の裁判記録は今な
お残されているようである。

土浦は、東に日本で2番目

の広さの霞ヶ浦を、そして、
北には関東平野を一望するこ
とのできる紫峰筑波山を望む
ことのできる風光明媚なところ。
それゆえ、新治裁判所在
任中の中洲もあちこちら周
遊し、数多くの詩を残してい
ることは皆さんご承知のお
り。明治9年森春濤氏によつ
て刊行された「霞浦游藻」に
約60編収録されているとい
う。かの有名な小田城址にも
周遊し、任を終えて東京に帰
った後に、その碑文を書き、
建碑された。

創始者・中洲と土浦が深い
縁で結ばれているとも知ら
ず、二松學舎を選び、東京ま
で通うことになるうとは…。
人生というものはどこでどの
ような縁で結ばれているか、
本当に不思議なものである。
だからこそ、出会いは大切に
していきたいものですね。



『全訳 霞浦游藻』
大地武雄名誉教授

埼玉県支部

埼玉の魅力

支部長 青木一弥（47文）



二松學舎と極めて縁の深い洪沢栄一翁が、新1万円

札の肖像となった。

「都道府県魅力度ランキング」において、常に最下位付近という結果に甘んじている埼玉県にとっては、誇るべき出来事の1つであった。

ところで、埼玉の偉人と言え、洪沢翁を筆頭に塙保己一や女医第1号の荻野吟子知られるが、洪沢翁とも交流のある本多清六博士の業績に触れてみたい。

本多博士は久喜市（旧菖蒲町）の出身で、わが国初の林学博士であり、日比谷公園や明治神宮の森など、全国の公園設計に携わり「日本の公園の父」と呼ばれた人物である。苦学生でもあった本多博士は帝大に奉職後、東京で学ぶ同郷の学生を支援すべく育英会の設立に奔走した。

そこで頼ったのが洪沢翁である。翁は「此会など自分一人の力で立つるは敢て難事ではないが、私は此会を埼玉県人全体の精神の籠ったものとしたい」と考え、埼玉県出身の政財界人からの出資・支援を得て、明治35年「埼玉学生誘掖会」が発足した。

寄宿舎生との記念写真には、中央で翁と並ぶ博士の気概に満ちた姿が残されており、その後、2人の親交は長く続くことになる。

話は変わるが、6月末に、「松苓会埼玉県支部総会」を大学で実施した。コロナ禍の中断を経て、4年ぶりの再開であったが、母校での開催は、「松苓会」の意義や目的を再認識させるものであった。

明治人の精神とは比べ物にならないが、その一端だけでも受け継ぐ支部会でありたい。多くの人材を世に送り出した「埼玉学生誘掖会」は、公益財団法人として、大学に近い九段南の地で創立122年目を迎える。

そこで頼ったのが洪沢翁である。翁は「此会など自分一人の力で立つるは敢て難事ではないが、私は此会を埼玉県人全体の精神の籠ったものとしたい」と考え、埼玉県出身の政財界人からの出資・支援を得て、明治35年「埼玉学生誘掖会」が発足した。

千葉県支部

九十九里南端の緑と海と太陽のまち

支部長 河野千津子（49文）



私は、九十九里浜の南端に位置する一宮町に暮らして

います。人口は約12000人で男女約半々の人数です。豊かな自然に恵まれた静かな環境で、たくさん種類の農産物が栽培されています。また、年間を通してサーフィンが楽しめる魅力ある町で、首都圏からのアクセスもよく、新たなリゾートタウンとして注目を集めています。一宮町の魅力をほんの少しだけ紹介をさせていただきます。

【上総国一之宮神社】

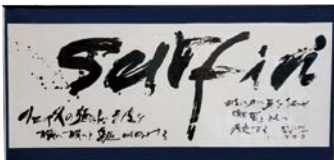
1200年以上の歴史をもつ黒漆塗り、権現造りの古社で神武天皇の母君を祭っています。緑豊かな境内に入ると、家族のように並ぶ3本のイチヨウの木があります。雄株、雌株、2本のイチヨウの種から育った子供イチヨウの

順にふれると子授けや子宝、安産などにご利益があるといわれています。玉前神社は御

来光の道「レイライン」の東の起点に位置し、東端にある出雲大社を結んだ直線上には、寒川神社（神奈川県）、富士山、七面山（山梨県）、竹生島（琵琶湖／滋賀県）、元伊勢（京都府）、大山（鳥取県）が並んでいます。境内にある「はだしの道」では、玉砂利の道を3周歩くと、足元から土地のパワーをいただくことで気が満ち願いが叶うといわれ、幸運を祈願する参拝客を多く見かけます。

【東京2020オリンピック〈サーフィン〉の舞台に】

太平洋に面し、年間を通して良質な波が打ち寄せることから数多くの国際大会が開催され、東京2020オリンピックの競技会場になりました。一宮町出身のプロサーファー大原洋人選手が



準々決勝に進出しました。今年のパリオリンピックでも、一宮町出身の稲葉玲王（れお）選手が準々決勝進出の成績をおさめています。ビーチライン沿いには多くのサーフショップやカフェ、レストランが建ち並び、リゾート暮らしを求めて移住希望者が増加しています。

東京都支部

酒と文学の日々

支部長 矢澤喜成
(50文・院修17文)



大学の入学式直後にガイダンスがあり、そこで前の席から声を掛けて来たのがY君だった。終了後、すぐに意気投合して居酒屋へ。酒を浴びるような日々の大学生活のスタートだった。酒豪Y君とは、今でも呑み友達だ。それにしても、神楽坂・飯田橋・新宿と、よくあれだけ毎日のように呑み歩いたものだ。土曜日の1時限目、大地

武雄先生の「陶淵明の文学」に、二日酔いで神楽坂から出席した事も。（大地先生、済みません。）

今年で教員生活42年目を迎え、その間、学校に勤めて来た訳だが、実は高校生までは、学校に通う事が苦痛だった。豁然開朗、大学に入学して、学校に通う事が楽しくて仕方無かった。自分のしたい事だけをしていればよいのだから。当時「東大の書店」と揶揄された二松學舎の教授陣は、魅力的だった。脂の乗り切った年齢で国立大学等を退官され、二松學舎で教鞭を執られている先生方は、超一流であった。

就中、文学の何たるかをも弁えぬ矢澤を文学研究の道に導いて下さったのは、斎藤喜代子先生である。斯くして大学院に進学したのだが、その入試の際、筆記試験はよく出来たものの、口頭試験で、赤塚忠・宇野精一・市川安司・中田勝各先生方の質問に窮した矢澤を庇って下さったのが石川梅次郎先生だった。

二松學舎での6年間は、酒と文学の日々だった。

神奈川県支部

学生時代の思い出

支部長 平野光治 (40文)



二松學舎大
学での思い出
は枚挙にいと
まがありません。
教員を目指しての入学であつたので、その関係から書かせていただきます。

教員になって全くの思い違いは「大学で学んだことは授業に生かせる」と考えていたことだ。中学校では全く役にたたなかった。一年目は授業研究や個人ノート記入に明け暮れたことを覚えている。授業終了後、他の先生の板書を見回ったことも良い思い出になっている。

しかし、国語の授業の在り方は大学で学んだ。『徒然草』の授業である。特に「四十段」（栗しか食べない娘の結婚を許さない親）の授業であつた。吉田兼好がこの段を書いた

理由を語りあつた。荒唐無稽も気にせず、多様な意見が交わされた。楽しく、印象深い授業であつた。勿論、答えも教わつた。私はこの授業を理想として掲げ、授業の在り方を追い求めた。年度始めに授業の理想として語ったことは言うまでもない。生徒の大部分が理解してくれなかったことも事実である。私の勝手な考えだったのかもしれない。もう一つの大きな思い出は「代返」である。前夜、市ヶ谷駅前公園で夜を徹して「宗教」について友と語り合い、声が出なくなつた。授業に出ないで代返出席などは許せないと考えていた自分にとつて、出席しながらの代返は奇妙、且つ貴重な体験である。

大学時代は自分の生き方、人生に大きく関わる時間であつた。目標の持てない生徒には、特に高校・大学進学を勧めてきた。自分の目標を追い求める時間と学ぶ時間、自由な時間を与えてくれたからである。そんな体験をさせてくれた大学に感謝している。

学生会員だより

九段祭POP2024を

終えて

学生会執行委員会 会長

文学部3年 竹石翔馬

学生会執行委員会の会長を務めております竹石翔馬と申します。

今年度も文化団体が日頃の活動の成果を発表する学内向けの文化祭として六月十六日(日)に学生会執行委員会が主催となり、九段祭POP2024を九段キャンパスにて開催いたしました。「翠緑(すいりょく)」というテーマ、「緑に色づいた葉に雨が滴る、あるいは混じり気のない翠のように今泡沫の情景を心に書き記そう」というコンセプトを掲げ、意気込みも新たに今年度の九段祭POPに携わる皆様が存分に楽しめるような、そして一致団結できるような行事にしたいと、役員一同準備を進めてまいりました。また、このイベントは二松学舎大学に入学した新入生にとってサークル・同好

会などに所属しての、初めて参加するイベントでした。我々、学生会執行委員会も新たに一年生を迎え入れ、新体制の行事運営となりました。今年度も昨年度同様に多くの団体に参加していただくことができました。どの団体も開催日当日に最高の発表が行えるように準備している様子が見受けられました。我々、学生会執行委員会も団体が満足のできる発表が行えるよう精一杯フォローしてまいりました。また、教室や中洲記念講堂での発表は団体・来場者という垣根を越えて双方が楽しむことができたのではないかと存じます。学生会執行委員会では毎年恒例企画となっているビンゴ大会を始め、思い出を撮影し共有することができる「フォトスポット」の設置や大学構内を使い単語を集める「ワードハント」などの企画を準備いたしました。それぞれ来年度以降への課題や改善点は見受けられましたが、どの企画も来場者の皆様の思い出のひとつになって

いれば幸いです。

今年度は梅雨時期の開催であったにも関わらず、終日天候にも恵まれ、沢山の皆様にお越しいただきました。参加していただいた団体の皆様、九段祭POP2024に足をお運びくださった皆様のご尽力のおかげで、今年度も無事九段祭POP2024を開催することができました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。私たち学生会執行委員会にとっても、団体の皆様と協力しながら一つの大きなイベントを作り上げる過程は、貴重な経験となりました。特にこの九段祭POPで学生会執行委員会の下級生の成長を見ることができたと思います。今まで色々と教えられてばかりだった後輩たちが、一つの物事を多方面から見るとの視点を持ち、自ら考え自ら一生懸命に動いてくれたからこそ、この九段祭POPが成功したのだと思います。

11月には「創縁祭2024」が開催されます。不測の事態

にも備え、参加してくださる多くの方に安心していただけるよう協議を重ね、準備を進めていき、役員一同団結して皆様が笑顔になれるイベント運営を目標に精進していきたいと存じます。また、九段祭POPを通じて得られた多くの貴重なご意見を真摯に受け止め、創縁祭2024の運営に活かし、さらに魅力的なイベントを企画するために努力を重ねてまいります。今後のイベントが成功しますよう、応援してくださいと幸いです。



POP2024 学生会執行委員会の皆さん

美術部

文学部3年 山根胡桃

こんにちは。二松学舎大学美術部です。週2回ほどの活動で、イラストを描いて、批評しあって、また描いて、というように部員同士でゆるゆるとですが、交流しながら日々創作活動を行っています。今年は1年生が10人以上入って部員が30人にまで増え、賑やかになりました。年に2回発行している部誌では、春には自由に描かれたイラストと自己紹介、名刺代わりの「なかよしアート」、秋には決められたテーマに沿って描く「爆裂アート」と、部員たちの力作が集まります。



創縁祭での展示

現在はデジタルでイラストを描いている部員が多いですが、制作するのはイラストだけではなく、デジタルではあり

ません。水彩画や油絵などの絵の具を使った絵をはじめとして、粘土で作るフィギュアや折り紙、UVレジンや手縫いで作るアクセサリー、革細工など様々で、部員たちがそれぞれ作りたいものを作りたいだけ自由に作っています。部室には画材や手芸の材料が揃っていて、いつでも制作ができる環境が整っています。

美術部では一緒に創作活動をしてくれる方を募集中です。作るのは苦手だけど、見たり語ったりするのは好きという方も大歓迎です。X（旧Twitter）の方も気まぐれに更新していますので、興味があれば、のぞいてみてください。

11月の創縁祭では例年、それぞれが制作した作品の展示と販売を行っています。素敵な作品がたくさん見られますので、ぜひお越しください。お待ちしております。

X 二松学舎大学美術部

@nisho_artclub

nimatsu_art_club@yahoo.co.jp

ヒップホップサークル

『SPINE』

文学部2年 小佐井凌

ヒップホップサークル『SPINE』は、2024年の春に新たに設立されたサークルです。ヒップホップと聞くと、いわゆる「不良」なイメージが浮かぶのではないのでしょうか。しかし今年のパリ五輪でブレイキンという競技が登場したように、ヒップホップと一口に言ってもその在り方は様々です。

私たちは主に日本語ラップに焦点をあてて、日本語で韻を踏みながら自らが伝えたいことを表現するという、表現方法としてのヒップホップを重視した活動に取り組んでいます。

現在の部員の大半が文芸部と兼部しており、日本語の表現方法の新たな形態として楽しみながら探求していることが、このサークルの特徴であり、アイデンティティでもあります。

もちろん日本語ラップ以外にもヒップホップという文化

について、その発生や背景、受容までの過程などについて研究することもあります。

ファッション、音楽ジャンルの一つとして見るのではなく、当時の社会で生まれた文化として見ることで、新たな観点を得ることもできます。

ヒップホップサークル『SPINE』はまだ生まれたてのサークルです。現在ではDiscordというアプリを用いての交流が主な活動となっていますが、創縁祭などへの参加を始め、積極的に活動していく予定です。

ラップでも、DJでも、グラフィティでも、ブレイキンでも、ヒップホップに「興味あり」という方も、このサークルに「超期待」している方も、私たちと一緒にこのサークルを作り上げていきませんか。

本学のクラブサークル等で知りたいことがありましたら、大学のホームページの「在学生の方」をクリックして、ご覧ください。

叙勲受章

令和5年秋の叙勲

林武志名誉教授

(院修1文)

林武志名誉教授が、永年の本学の教育研究に尽力された功勞により、瑞宝中綬章を受章されました。

令和6年春の叙勲

小林 勉氏(41文)

小林勉氏は本学を卒業後、茨城県で教育に力を注ぎ、高等学校長を務められ、教育功勞により、この春、瑞宝小綬章を受章されました。

※松苓会では、本会会員が叙勲褒章の受章や文学賞等社会的に評価される賞を受賞された際に祝意を表しています。同窓の方の情報がありましたら、松苓会事務局までご一報のほどお願いします。

卒業生だより

関西からの生存報告

小山智久(50文・院修17文)

還暦を過ぎると、中学・高



等学校の同窓会など、何かと久闊を叙する機会が増えるものですが、この度は大学時代の旧友の縁で、便りの機会を得ることとなりました。

大学院修了後、出身の兵庫で県立高校三校の勤務を経て行政に転じ、県立教育研修所(現・総合教育センター)と県教育委員会事務局とを行き来しました。教員研修と議会対応のほか、教育振興基本計画など教育基本法改正前後の教育改革への対応や阪神淡路大震災後の児童生徒の心のケアを中心とした兵庫の防災教育、また、小学校の教科担任制や少人数教育の加配の活用の工夫など、国語教育と離れた仕事をしてきました。

最後の3年間は校長をさせていただき、この間、本県の高校国語教師の協力を得て、全国高等学校国語教育研究連合会第50回兵庫大会を開催し、全国から大勢の国語教師が参加下さいました。大会は桂米團治師匠の父米朝を語る

講演やざこば師匠の落語をはじめ、夏井いつき、平田オリザなど多士済済の講師陣によるワークショップなどにぎやかな会となりました。

定年後は、研修所長で再任用。コロナ禍で各校のICTを活用した授業のための研修資料やオンライン研修を所員の協力で何とか整えることができました。

現在は、教員研修の経験を活かして、神戸親和大学で日本文学と国語科教育法を担当し、自分の大学時代を懐かしみ、不易と流行を意識しながら、中・高の教員の養成に関わっています。

述懐

米山善澄(52文)



二松学舎大学を卒業して41年。公立高校で講師として勤務していた時期を差し引くと武蔵越生高等学校で39年の月日を迎えている。その中でクラス担任を継続して受け持つことができた34年間は、

とても有意義な時間であった。しかしながら、経験を重ねても失敗は付き物である。その失敗を糧にして、次の学生の生徒を卒業させる日々。

日々の生活に倦む。何かを変えていくには言動を変えて行かなければならない。そのような時に、大学時代に鉄道部で過ごした経験が活かされたと感じている。なぜならば、社会の荒波よりも理不尽な体験を二十歳に満たない段階で経験してきたといえるからである。

逆境に堪えうる精神面の強さの基礎を培ってくれたのは大学時代のクラブのお陰であると確信している。また、山崎正之ゼミで上代文学の研究に勤しみ、学友と意見交換をしてきたことは、現在の職場において大変役立っている。

振り返れば、決して順風満帆な教師生活ではなかったと言える。生徒との諍いや、保護者からのクレームがなかったとは言えない。特に直近10年は生徒や保護者の質にも変化があり、対応に追われる

ことがなかった訳ではない。生徒・先生方・保護者など、他者の気持ちを慮ることができるとなれたのは、クラブとゼミでの活動が多分に影響しあっていると感じられる。残りの教員生活は短くなった。小論文・漢字検定上級合格指導がライフワークである。

義と利のはざま

岡野康幸（67文・院博39文）



人は霞を食って生きていけない。食うため生きるた

めに収入を得なければならぬ。FIREを実現した人ならば金に縛られることもない。しかし、大半の人は金に否応なく縛られる。

学祖三島中洲「義利合一論」

や洪沢栄一「論語と算盤」は、義（正しさとよさ）と利（利益）の一体性を謳ったものである。義に利の担保をさせることで利益を得る行為に正当性を持たせた利重視の考えだ。もともと「利重視」と明

言したのは、先師松川健二本学客員教授である。

利をあてにするなど儒者として悍ましいと考えたのが、中洲を批判して「義利合一論辯解」を著した並木栗水（大橋訥庵の高弟）である。栗水の中洲批判は鋭いのだが、世間に影響した形跡は見られない。では、栗水が世の流れを見通せない頑固者だったのだろうか。否である。

この利否定の思想を栗水は師大橋訥庵から受け継いでいる。大橋訥庵著『闢邪小言』に「我神州ノ貴キ所以ハ。聖道明ニ倫理正シク。精悍果鋭余リアリテ。義ヲ重ンジ恥ヲ崇トビ。利ノ為ニ動カザル所アルヲ以テナラズヤ。」とあり、日本が貴いのは義を重んじて利のために動かないことにあると述べている。

利がなければ生きてはいけない。しかし、利だけで生きているのではない。「一肌脱ぐ」「身銭を切る」の言葉が示すように、人は自分が損をしてでも正しいことやよいことに、つまり、義に殉ずるこ

とがあるのだ。

この義と利の在り方について、訥庵師弟を中心に考えているのが僕の近況である。

卒業生の出版図書

原由来恵教授(63文・院博34文)

『枕草子の読み解き』

―地名類聚そして言語遊戯―

武蔵野書院

10,780円（税込）

2024年2月27日刊



『枕草子』という作品は何か。本書では、

これまで注目解明されて来なかった、類聚的章段群、特に地名類聚章段群から作者の言語遊戯性とそのコンテキストを読み解くことによって、『枕草子』の意図の一端を明らかにすることを試みた。同時に、その着想と後世への影響についても合わせて私見を提示した。

『枕草子』との出会いは能の『姨捨』であった。「棄老

伝承」から『枕草子』『社は』章段と向き合うようになり、いつのまにか研究課題となった。

二松学舎大学だったからこそ、狂言研究会で大藏吉次郎師や仲間たち、故雨海博洋先生に、ゼミ生や受講生達に、出会えた。出版をおして多くの感謝とともに、改めて大学への感謝を痛感している。（著者）

竹吉優輔さん（72文）

『たったひとつの冴えない復讐』

ISBN 978-4-06-535936-5

講談社

2,145円（税込）

2024年7月10日刊



2013年に『襲名犯』で第59回江戸川乱歩賞を受賞

され、その後、『レミングスの夏』や『ペットシヨップボーイズ』などの作品を発表。この度、『たったひとつの冴えない復讐』が刊行されましたので、ご紹介します。

「第29回松苓会定期総会」開催報告

2024年度の定期総会が2024年6月8日(土)13時30分から二松學舎大学九段一号館2階202教室で開催された。

当日は水戸英則理事長、佐藤晋学長、五十嵐清常任理事が臨席された。

総会は、小西明德常任幹事により開会が宣言され、高柳幸雄幹事長から、昨年度の総会以降に物故された松苓会会員と大学関係者について報告があり、黙禱を捧げた。

続いて、構成員75名中出席者43名、委任状14名、議決権行使書提出者9名の合計66名の参加があり、総会の成立が確認された。

平野光治会長の挨拶に続き、水戸理事長、佐藤学長からそれぞれ挨拶があった。大山由美子副会長が議長に選出され、副議長に星野優子副会長を、書記に坂井福作新潟県支部長、馬淵裕之常任幹事を指名、議事録署名人には持田

賢一常任幹事、青山幸雄茨城県支部長を指名した。

議案審議

次第に従い議案の審議が行われ、第1号議案から第6号議案まで原案どおり承認され

総会議案

- 1 2023年度事業報告並びに事業監督報告
- 2 2023年度収支決算報告並びに経理監査報告
- 3 二松學舎松苓会同期会に関する規程の制定について
- 4 2024年度事業方針並びに事業計画案
- 5 2024年度予算
- 6 会則13条第2項による顧問承認について

諸報告

- 1 支部運営助成費について
- 2 顧問・同期会代表者・事務局員について
- 3 その他 ・松苓会への意見・要望について
・常任幹事、幹事の皆様より

た。第6号議案は、平野会長から廣田克己前会長の顧問推挙について説明があり、承認された。

同期会代表幹事

(2024年3月20日付)
第92期 中野椋介(92政)
が代表幹事となった。



挨拶をする平野光治会長



第3号議案を説明する金井康副会長



議長の由美子副会長(右)と副議長の星野優子副会長(左)

2024 年度 松苓会予算				
2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日				
○収入の部				
前年度繰越金	(単位：円)	7,923,500		
(会費)		4,085,000		
新卒者終身会費		10,800,000		
既卒者終身会費		300,000		
小寄附収入・受取利息		11,100,000		
雑収入		300,000		
雑収入		300,000		
雑収入		0		
合 計		23,708,500		
○支出の部				
事業費				
松苓会会報等発行・HP 整備				
印刷・制作費(72・73号分)		1,200,000		
発送費(72・73号分)		3,000,000		
「扶苓」発行費		0		
小		4,200,000		
卒業生交流事業				
ホームカミングデー		600,000		
小		600,000		
卒業生支援事業				
支部運営助成費		600,000		
支部報発行助成費		600,000		
支部強化助成費		100,000		
支部同会助成費		300,000		
小		1,600,000		
母校支援事業				
教育振興資金助成費		1,000,000		
小		100,000		
在学学生支援事業				
学園祭活動助成費		100,000		
学課教員生活費		200,000		
卒学学生会費		1,000,000		
卒学学生会費		300,000		
卒学学生会費		900,000		
卒学学生会費		200,000		
小		2,700,000		
事業費合計		10,200,000		
運営費				
会費		200,000		
出張費		1,500,000		
出張費		300,000		
出張費		500,000		
出張費		1,000,000		
小		3,300,000		
通信・配送費		150,000		
印刷品		200,000		
消耗品		350,000		
弔礼数借		250,000		
弔礼数借		100,000		
弔礼数借		50,000		
弔礼数借		80,000		
弔礼数借		240,000		
小		60,000		
運営費合計		4,980,000		
特別会計				
周松松特別会費		1,000,000		
周松松特別会費		500,000		
周松松特別会費		2,000,000		
周松松特別会費		3,500,000		
予備費		5,028,500		
合 計		23,708,500		

2024 年度 松苓会特別会計予算				
1 周年事業積立金				
(収入の部)				
2023 年度からの繰越		5,755,967		
2024 年度繰入		1,000,000		
合 計		6,755,967		
(支出の部)				
		0		
合 計		0		
2 松苓会奨学基金				
(収入の部)				
2023 年度からの繰越		9,950,689		
2024 年度繰入		500,000		
2024 年度貸与返還金		375,000		
利 息		79		
合 計		10,825,768		
(支出の部)				
2024 年度給付奨学金		996,000		
合 計		996,000		
3 松苓会費積立金 (終身会員積立金の名称変更)				
2023 年度からの繰越		77,308,013		
2024 年度繰入		2,000,000		
合 計 (次年度繰越)		79,308,013		

2023 年度 松苓会収支決算書				
2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日				
○収入の部				
前年度繰越金	(単位：円)	6,536,349		
(会費)		4,270,000		
新卒者終身会費		10,845,000		
既卒者終身会費		240,000		
小寄附収入・受取利息		11,085,000		
雑収入		531,000		
雑収入		301,501		
雑収入		22,723,850		
○支出の部				
事業費				
松苓会会報等発行				
印刷・制作費(70・71号分)		1,103,300		
発送費(70・71号分)		2,415,083		
「扶苓」発行費		0		
小		3,518,383		
卒業生交流事業				
ホームカミングデー		341,253		
小		341,253		
卒業生支援事業				
支部運営助成費		519,060		
支部報発行助成費		468,453		
支部強化助成費		0		
支部同会助成費		10,000		
小		997,513		
母校支援事業				
教育振興資金助成費		1,000,000		
小		50,000		
在学学生支援事業				
学園祭活動助成費		1,050,000		
学課教員生活費		100,000		
卒学学生会費		65,000		
卒学学生会費		724,300		
卒学学生会費		219,813		
卒学学生会費		814,000		
卒学学生会費		16,000		
小		1,939,113		
事業費合計		7,846,262		
運営費				
会費		161,463		
出張費		0		
出張費		28,000		
出張費		0		
出張費		2,258,495		
出張費		1,105,325		
出張費		72,990		
出張費		461,000		
出張費		619,180		
出張費		58,210		
出張費		163,887		
出張費		157,740		
出張費		233,375		
出張費		63,000		
出張費		0		
出張費		38,162		
出張費		230,340		
出張費		61,416		
小		3,454,088		
特別会計				
周松松特別会費		1,000,000		
周松松特別会費		500,000		
周松松特別会費		2,000,000		
周松松特別会費		3,500,000		
予備費		0		
合 計		14,800,350		
○収支残高 (次年度繰越)		7,923,500		

2023 年度 松苓会特別会計決算書				
1 周年事業積立金				
(収入の部)				
2022 年度からの繰越		4,755,967		
2023 年度繰入		1,000,000		
合 計 (次年度繰越)		5,755,967		
2 松苓会奨学基金				
(収入の部)				
2022 年度からの繰越		9,450,610		
2023 年度繰入		500,000		
2023 年度貸与返還金		0		
利 息		79		
合 計		9,950,689		
(収支) 9,950,689-0=9,950,689 (次年度に繰越)				
3 松苓会費積立金 (終身会員積立金の名称変更)				
2022 年度からの繰越		75,308,013		
2023 年度繰入		2,000,000		
合 計 (次年度繰越)		77,308,013		

2023 年度会計収支決算は以上のとおりです。
2024 年 5 月 24 日
二松學舎松苓会会長 平野 光治 ㊞
二松學舎松苓会事務局 山口 千鶴 ㊞

経理監査報告書
2023 年度 (2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日) の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。
2024 年 6 月 8 日
二松學舎松苓会監事 田邊 義博 ㊞
二松學舎松苓会監事 佐藤 修 ㊞

二松學舎松苓会役員名簿

2024年9月1日現在

本部 幹 事(ア)

役職	氏 名	回卒
顧 問	末 吉 榮 三	12 専
顧 問	神津賢一郎	27 文
顧 問	廣 田 克 己	38 文
相談役	水 戸 英 則	理事長
相談役	佐 藤 晋	学 長

本部 三 役

役職	氏 名	回卒
会 長	平 野 光 治	40 文
副会長	金 井 康	41 文
副会長	星 野 優 子	42 文
副会長	大山由美子	47 文
幹事長	高 柳 幸 雄	49 文

本部 監 事

役職	氏 名	回卒
監 事	田 邊 義 博	47 文
監 事	佐 藤 修	41 文

本部 事務局

役職	氏 名	回卒
事務局員	山 口 千 鶴	50 文

本部 常任幹事

役職	氏 名	回卒
常任幹事	渡 辺 和 則	特別
常任幹事	小 林 孝 彰	38 文
常任幹事	中 居 功 一	39 文
常任幹事	持 田 賢 一	40 文
常任幹事	金 井 康	41 文
常任幹事	坂 井 福 作	42 文
常任幹事	清 水 登	42 文
常任幹事	星 野 優 子	42 文
常任幹事	家 永 修	44 文
常任幹事	大山由美子	47 文
常任幹事	青 山 幸 雄	49 文
常任幹事	高 柳 幸 雄	49 文
常任幹事	片 山 聖 英	50 文
常任幹事	矢澤喜成	50 文
常任幹事	菅 原 義 博	53 文
常任幹事	高 橋 映 子	53 文
常任幹事	三 好 行 雄	53 文
常任幹事	志 村 孝	59 文
常任幹事	西 園 隆 士	59 文
常任幹事	小 西 明 徳	60 文
常任幹事	馬 淵 裕 之	60 文
常任幹事	中 原 敬 二	62 文
常任幹事	原 由 来 恵	63 文
常任幹事	助 川 忠 弘	65 政
常任幹事	渡 辺 大 雄	65 文

本部 幹 事(イ)

支部	氏 名	回卒
北海道	佐 賀 敦 司	49 文
青 森	柴 垣 博 孝	44 文
岩 手	宮 本 義 孝	32 文
宮 城	二 上 久 芳	44 文
秋 田	鈴 木 隆 博	54 文
山 形	今 野 紀 生	55 文
福 島	未 定	
茨 城	青 山 幸 雄	49 文
栃 木	寺 内 進	49 文
群 馬	高 柳 薫	47 文
埼 玉	青 木 一 弥	47 文
千 葉	河 野 千 津 子	49 文
東 京	矢 澤 喜 成	50 文
神奈川	平 野 光 治	40 文
山 梨	板 山 俊 介	36 文
長 野	清 水 登	42 文
新 潟	坂 井 福 作	42 文
富 山	小 島 貴 雄	47 文
石 川	菅 野 成 也	50 文
福 井	中 道 佳 宏	58 文
岐 阜	竹 内 秀 人	55 文
静 岡	江 本 浩 二	51 文
愛 知	松 田 博 文	55 文
三 重	小 川 直 紀	44 文
滋 賀	角 井 良 暢	49 文
京 都	廣 田 康 男	54 文
大 阪	齋 藤 衛	49 文
兵 庫	武 内 昭 徳	47 文
奈 良	辻 一	39 文
和歌山	明 治 利 隆	47 文
鳥 取	小 谷 章 公	38 文
鳥 根	山 平 恭 史	58 文
岡 山	山 田 敦	48 文
広 島	村 山 慶 一 郎	47 文
山 口	俵 田 賢 嗣	40 文
徳 島	佐 々 木 義 登	59 文
香 川	中 條 敏 雄	50 文
愛 媛	村 上 純 也	59 文
高 知	足 達 昇	55 文
福 岡	正 生 英 彦	48 文
佐 賀	白 濱 富 士 夫	54 文
長 崎	黒 瀬 孝 志 郎	38 文
熊 本	塩 永 英 文	52 文
大 分	甲 斐 啓 一 郎	52 文
宮 崎	内 村 厚 夫	44 文
鹿 児 島	岡 元 正 昭	31 文
沖 縄	金 城 健 一	38 文

本部 幹 事(ウ)

期別	氏 名	回卒
88 期	未 定	88
89 期	未 定	89
90 期	未 定	90
91 期	大 貫 龍 之 介	91 文
92 期	中 野 椋 介	92 政

本部 幹 事(ウ)

役職	氏 名	回卒
幹事	渡 辺 和 則	特別
幹事	小 林 孝 彰	38 文
幹事	中 居 功 一	39 文
幹事	持 田 賢 一	40 文
幹事	金 井 康	41 文
幹事	星 野 優 子	42 文
幹事	家 永 修	44 文
幹事	大山由美子	47 文
幹事	小 町 邦 明	49 文
幹事	高 柳 幸 雄	49 文
幹事	大 淵 俊 明	50 文
幹事	片 山 聖 英	50 文
幹事	菅 原 義 博	53 文
幹事	高 橋 映 子	53 文
幹事	三 好 行 雄	53 文
幹事	志 村 孝	59 文
幹事	西 園 隆 士	59 文
幹事	小 西 明 徳	60 文
幹事	町 泉 寿 郎	60 文
幹事	馬 淵 裕 之	60 文
幹事	中 原 敬 二	62 文
幹事	原 由 来 恵	63 文
幹事	助 川 忠 弘	65 政
幹事	渡 辺 大 雄	65 文
幹事	山 崎 真 之	66 政
幹事	篠 原 貴	69 文

役員は、二松學舎松苓会会則の第10条（役員の選出）により、選出されています。

二松學舎松苓会ホームページ ご活用ください！

■二松学舎大学ホームページ



「卒業生の方」をクリック

「**松苓会とは**」には、「会長挨拶」「二松学舎松苓会の案内」「二松学舎松苓会会則」「二松学舎松苓会奨学金」「年間スケジュール」を掲載していますので、ご一読ください。

「**支部紹介**」には、都道府県の各支部の情報、支部総会案内、支部主催の講演会・文学散歩の案内を掲載していますので、支部の活動にぜひご参加ください。

「**同期会**」には、同期会の開催案内・報告を掲載することができます。開催内容が決まりましたら、松苓会事務局までお知らせください。

「**ゼミ・クラブのOBOG会**」には、ゼミナールのOBOG会、クラブ・サークルのOBOG会の開催案内やOBOG会報を掲載しています。現在は、剣道部の「二松剣」が掲載されています。活動されているゼミナールのOBOG会、クラブ・サークルのOBOG会は、松苓会事務局までお知らせください。

「**松苓会報**」には、2024年10月1日現在、「松苓会報」第1号（1986（昭和61）年12月1日創刊）から第71号（2024年3月15日）までを掲載しています。

「**ホームカミングデー**」には、毎年11月の学園祭（創縁祭）時に開催しているホームカミングデーの開催案内を掲載します。ぜひホームカミングデーに会場され、同時に創縁祭に参加してください。

中洲記念講堂での舞台発表や構内の展示発表の見学、模擬店等での飲食等、大学生を応援してください。

また、ご自身も学生時代を思い出してください。

松苓会では、会員の皆さんが活用できるよう、松苓会ホームページの充実を図っていきます。情報をお待ちしています。

■松苓会ホームページ



本部よりお知らせ、支部・同期会・ゼミ・クラブのOBOG会よりお知らせ

「本部よりお知らせ」と「支部、同期会、ゼミ・クラブのOBOG会よりお知らせ」には、最新の情報を案内しています。クリックしてみてください。



事務局だより

2023年度常任幹事会

(第6回) 3月16日(土)

主な議題

- 1 部会より
- 2 松苓会報について
- 3 卒業記念品について
- 4 その他

2024年度常任幹事会

(第1回) 5月11日(土)

主な議題

- 1 廣田克己前会長の顧問
推挙について
- 2 総会議案について
- 3 同期会規程について

主な議題

- 1 総会出席者の宿泊費に
ついて
- 2 支部への支部会員名簿
(ラベル形式)の提供に
ついて
- 3 卒業記念品について

(第3回) 9月21日(土)

主な議題

- 1 部会より
- ・ 事業部会
- ・ 組織部会
- ・ 総務部会

2 支部への宛名ラベル提供について

3 台風・大雨見舞いについて

支部長交代

岡山県(令和6年4月1日付)

新 山田 敦

(48文・院博17文)

前 永瀬 清(39文)

徳島県(令和6年9月1日付)

新 佐々木義登(59文)

前 大倉 明子(47文)

愛知県(令和6年10月1日付)

新 新海 直(59文)

前 松田 博文(55文)

父母会との話し合い

9月7日(土) 16時より、

九段1号館11階会議室において、松苓会三役は、父母会の役員の皆さんと、三島学生支援課長の司会進行で意見交換を行いました。

現在、父母会と共に学生応援弁当、学生褒賞の支援を行っています。今後も懇談を重ねて、学生支援の充実を図っていききたいと考えています。

学生会執行部との話し合い

9月17日(火) 14時40分より、

九段1号館11階会議室において、三島学生支援課長の司会進行で学生会執行部の皆さんと、前回の話し合いで要望のあった6時限(18時20分～19時50分)の授業前に利用できる軽食の自動販売機導入等について検討しました。

現在、松苓会は、学園祭助成、入学記念品や卒業記念品の贈呈等支援を行っています。

訃報

平岡才二郎氏

前広島県支部長

令和5年10月26日逝去
享年88

増井義昭氏

前北海道支部長

令和6年4月5日逝去
享年76

酒井英男氏 客員教授

令和6年6月24日逝去
享年99

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

表紙

6月の定期総会の後、各地で支部総会が行われている。編集部に寄せられた記念の1枚を並べた。同級生、先輩・後輩、懐かしい顔はいくつ見つけられましたか？

編集後記

食欲の秋、72号をお届けします。4月に着任された佐藤新学長からのご寄稿、6月開催の定期総会報告など誌面は情報盛りだくさんです。誌面に入りきれない情報は下段にある「松苓会ホームページ」に掲載されています。本誌同様ご活用ください。「支部長だより」は関東編。ありがとうございました。次号は最終回の北海道・東北編。支部長の皆さま、よろしくお願いします。

本報は二松同窓生の交流の場です。会員皆さまの顔と声をひとつでも多く、掲載していきたいと、メール、書簡等で情報、ご寄稿、ご感想をお寄せください。お待ちしております。

二松學舎大学(松苓会)

ホームページ

松苓会 E-mail

www.nishogakusha-u.ac.jp

shourei@nishogakusha-u.ac.jp

二松學舎
松苓会報
No.72

創
刊
行
集
所
電
話
振
替
口
座
印

昭和62年12月1日
令和6年10月1日
二松學舎松苓会
〒102-8336
東京都千代田区三番町 6-16
03-3261-7408 FAX 03-3261-8914
00180-5-160343 (郵便局払込取扱票)
(株)サンセイ

